

連合宮城

『第78回地方委員会』を開催！



連合宮城は、2025年2月27日（木）、ハーネル仙台（仙台市）において、議長団に佐久間大輔地方委員（電力総連）、舟山克美地方委員（J P 労組）の2名を選出し、「第78回地方委員会」を開催した。当日は役員を含め、総勢88名が出席した（総数117名）。

執行部を代表し大黒会長は、1月6日に開催した新年交歓会では5年ぶりにコロナ禍以前の規模での開催ができたこと、1月17日開催の地方創生人口戦略フォーラムにおいては労働界を代表しパネラーとして出席し働き方改革について発信したことなどに触れ、結集する構成組織の仲間に深く感謝を述べた。また、2月6日に開催された地方版政労使会議では、働く者の立場で意見交換を行い、賃上げを含む労働環境改善の取り組みについて述べた。

この他に、①2025春季生活闘争においては、高水準の賃上げにより更に個人消費を上げていくことで経済の好循環を生む社会にしていかなければならない。そのためにも適正な価格転嫁・適正な取引と私たちの労働の価値を更に高めていく必要がある。②戦後80年を迎える年、連合宮城として平和行動に派遣し、戦争の悲劇を風化させない運動を進めていく。③労働法が施行されて80年。あらためて組織の強化・拡大のため取り組んでいく。④税金の使われ方次第では納税者にその恩恵が届いていない感がある。労働者の目線をしっかり持った議員の選出が重要である。各自治体選挙においても、推薦議員の当選に向け地協・構成組織の協力を是非お願いしたい。と4つのポイントについて触れた。

その後、一般活動報告ならびに2025年度中間会計決算・監査報告が承認された。

議案では、2025春季生活闘争方針(案)や第27回参議院選挙の取り組み方針(案)、第96回メーデー宮城県大会開催(案)が提案され、満場一致で承認された。



議長団・佐久間大輔地方委員（電力総連左）・舟山克美地方委員（J P 労組）右



新規加盟組合表彰（基幹労連）

第78回地方委員会議案

- 第1号議案 連合宮城2025春季生活闘争方針(案)について
- 第2号議案 連合宮城第50回衆議院選挙のまとめ(案)について
- 第3号議案 連合宮城第27回参議院選挙の取り組み方針(案)について
- 第4号議案 第96回メーデー宮城県大会の開催(案)について
- 第5号議案 連合宮城役員の選出について
- 第6号議案 連合宮城役員の交代について
- 第7号議案 連合宮城役員の表彰について
- 第8号議案 連合宮城新規加盟組合表彰について
- 第9号議案 その他



はたらくのそばで
ともに歩む

連 合

連合宮城 2025 春季生活闘争

!!! **みんなでつくろう!**
賃上げ があたりまえの社会

!!! **みんなでつくろう!**
働く仲間 の労働組合



2025 春季生活闘争労使懇談会

連合宮城 2025 春季生活闘争



連合宮城は、春季生活闘争におけるヤマ場の前段において、連合宮城・宮城県経営者協会「労使懇談会」を以下のとおり開催し、2025 春季労使交渉に関する諸課題について意見交換を行った。

- 開催日時 2025 年 3 月 3 日(月) 15 時 00 分～16 時 00 分
- 開催場所 江陽グランドホテル 3 階「白鳥の間」
- 開催内容 (1) 労使代表者あいさつ
(2) 「2025 春季生活闘争に関する要請書」手交
(3) 意見交換会

○出席者 連合宮城四役(10 名)、宮城県経営者協会(14 名)



増子会長に要請書を手交する大黒会長(左)

宮城県経営者協会の増子会長は、経労委報告のポイントについて触れるとともに、①賃上げの原資を継続的に確保するためには生産性の改善・向上が不可欠であり、その鍵はイノベーションの創出による付加価値の増大と働き手のエンゲージメント向上。②『成長と分配の好循環』を日本全体に行き渡らせるためには、中小企業と有期雇用等労働者の賃上げが不可欠。③働き手のエンゲージメントを高めるためには、賃上げに加え総合的な処遇改善と人材育成を『人への投資』として明確に位置付け、働きがいと働きやすさを実感できる職場環境を整備することが重要。と述べた。また地方の立場として、「中小企業は内需型が多いため、原材料やエネルギー価格の高騰に苦しんでいる。経団連の調査によれば、中小企業においても2年連続で記録的な賃上げとなったものの、いわゆる『防衛的賃上げ』を行った中小企業も少なくない。地方、中小企業の立場からすると、『働き手の確保・定着を図るため賃上げをしないわけにはいかない』というジレンマに陥っているのが実態である。より一層の賃上げ後押しの環境整備に加え、『適正な価格転嫁や販売価格アップに対する理解と共感』を社会的規範として浸透させる必要がある」と挨拶。

連合宮城の大黒会長は「日本は90年代半ばから、『賃金も物価も金利も動かない』というノルムが染みついている。この状況に大きな変化の兆しが見えるようになったきっかけは、2022 春季生活闘争からスタートした『未来づくり春闘』である。その結果、2024 春季生活闘争では33年ぶりの高水準の賃上げが実現し、『ステージ転換に向けた大きな一歩』として受け止めている。一方で、生活が向上したと実感している人は少数にとどまり、物価高による個人消費は低迷している。さらには、人材不足が中小企業の倒産にもつながりかねない深刻な問題となっており、この人材確保の観点からも、賃上げしやすい環境を整えることが必要不可欠である。揺れ動く国際社会の中で日本の経済社会を安定させ、人口減少のもとで社会や産業・企業を維持・発展させていくためにも『人への投資』をより一層積極的に行うとともに、国内投資の促進とサプライチェーン全体を見据えた産業基盤の強化により、日本全体の生産性を引き上げ、持続的な生活向上の実現をめざすべきではないか。今こそ、労使が社会的責任を果たすべく大きな問題意識を共有し、多くの人が生活向上を実感でき、将来への希望と安心を創っていく好機である。働く意欲と働く人々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会の実現に向け、宮城県経営者協会の皆様のご理解とご協力をいただきながら、賃金改善・処遇改善に取り組んでまいりたい」と述べた。

労使懇談会では今次春季生活闘争を取り巻く状況について意見交換を行った。

●連合宮城 2025 春季生活闘争に関する要請項目

- (1) 賃金引き上げ、「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組みについて
- (2) 労務費を含めた適切な価格転嫁等の取り組みについて
- (3) 「すべての労働者の立場にたった働き方」の改善について



連合宮城



宮城県経営者協会



すべての働く者の底上げ集会

連合宮城 2025 春季生活闘争



連合宮城は、2025年3月25日(火) 仙台市において、4月以降に本格的な山場を迎える中小企業や地場産業に働く労働者・組織などの支援と世論喚起、すべての働く者の賃金の「底上げ」「底支え」「格差是正」および「すべての労働者の立場にたった働き方」の同時実現を目的に、「2025 すべての働く者の底上げ集会」を開催した。当日は総勢約280名（第1部の学習会は70名）が参加した。



本集会は2部構成（学習会・集会）となっており、集会においてはコロナ禍以来の実に6年ぶりとなるデモ行進を実施した。

第1部の学習会においては、基調講演として日本銀行仙台支店より加藤営業課長を講師に招き、「最近の経済状況について～雇用・賃金を中心に～」と題して講演をいただいた。講演の中では、日本銀行の役割や日本経済・東北経済の動向について、また、各種指標を用いて雇用と賃金を中心に現状と見通しについて説明をいただいた。限られた時間ではあったが、これから本格的な交渉を迎える中小・地場組合にとって、交渉材料としての貴重な講演となった。

場所を屋外へと移動した第2部の集会では、冒頭主催者を代表し大黒会長は、「ここに集まった一人ひとりの思いは、『物価高に負けない賃上げが実現する社会をつくろう！』ではないか。そのことにより、モチベーションの向上、ひいては企業の生産性向上に大きくつながっていく。我々は好循環を創るこの社会に向けて、①賃上げの流れを定着させる、②価格転嫁について全体で理解をする、この2点を発信し、新しい社会を創っていくことが重要ではないか。本日集まった多くの仲間とともに、賃上げの機運醸成に向けて一体感をもって取り組むことで、組合のないすべての労働者を含めた社会全体に波及させ、あらゆる格差是正に全力で取り組んでまいりたい」と挨拶した。

また、佐竹事務局長より今次闘争に係る情勢報告を受けるとともに、リレートークとして、既に妥結した組織（自動車総連・J P労組）からの今次交渉の結果や、これから本格的なヤマ場を迎える中小・地場組織（運輸労連・ゴム連合〔仙南地協〕）からの取り巻く情勢、交渉状況についてマイクを繋いだ。

本集会におけるアピール(案)については、連合宮城女性委員会宮川委員長（J P労組）に提案いただき、満場の拍手で確認するとともに、最後は大黒会長の発声のもと「団結ガンバロウ」により締めくくった。

集会終了後はデモ行進を展開し、持続的な賃上げの定着の実現に向けて、社会の隅々まで賃上げの流れを浸透させるべく世論喚起を行った。

… リレートーク …



基調講演いただいた加藤営業課長



《妥結組織》
村上氏（自動車総連）



《妥結組織》
西内氏（J P労組）



小館氏（運輸労連）



水野氏（ゴム連合）



集会アピール(案)の提案
(宮川女性委員会委員長)



デモ行進の様子



シュプレヒコール（青年委員会）

連合宮城青年委員会「2025 青年春闘フォーラム」を開催！

連合宮城青年委員会は、2025春季生活闘争の取り組みとして「2025 青年春闘フォーラム」を開催した。

今次闘争においては、15時から幹事8名による街宣行動として、一番町平和ビル前にて「36（サブロク）の日」に関連した内容について訴えた。

春闘フォーラムについては、ハーネル仙台にて開催し、セミナーとグループディスカッションの構成で、幹事も含め33名（内女性4人）が参加した。

主催者を代表して能崎青年委員会委員長は、青年活動への参加について御礼を述べるとともに、サブロクの日街宣行動や春闘の情勢などに触れ、今後も青年活動への参加を呼び掛けた。

セミナーでは、当日の交通機関の影響により急遽WEBでの対応となったものの、連合本部の奥山局長より『2025春闘方針のポイントと36協定』と題し、春闘を取り巻く情勢や考え方、36協定や長時間労働の是正などについて丁寧に説明があり、今春闘でめざすことや健康で働き続けられる職場づくりに向けた組合活動の重要性を説明いただいた。

ディスカッションでは、5つのグループに分かれて、春闘と時間外労働のテーマで相互の情報交換をはかるなど、それぞれの単組や職場の状況などについて意見交換を行った。



- 日 時：2025年3月6日（木） 17:00～19:00
※青年層による Action36 街頭行動 15:00～15:40
- 場 所：ハーネル仙台 2階「松島B」
- 内 容 ①開会 瀬戸事務局長
②挨拶 能崎委員長
③講演 「2025 春闘方針のポイントと 36 協定」
講師 連合 労働条件・中小地域対策局 奥山 義彦 局長
④グループディスカッション
※5 グループ（テーマ：春闘・時間外労働）
⑤閉会
- 参加者：23人（内女性：4人）、幹事：10人、事務局：3人

「3.8国際女性デー宮城県行動」を実施！！

3.8 国際女性デー宮城県実行委員会（連合宮城女性委員会・立憲民主党宮城県連合・I 女性会議宮城県本部）は、3月8日（土）、2025春季生活闘争と連動し、女性の地位向上や男女平等の取り組み推進を目的として宮城県行動を実施した。本集会には、約100名が参加した。

基調講演では、講師に岡本あき子衆議院議員を招き、「選択的夫婦別氏制度がもたらすもの」と題し、同制度の法改正に向けた取り組みや、改正によるメリット、課題など、自らが別姓により感じる不便さ、女性キャリア形成への支障となっていることにも触れられ、国会で議論されている最先端の講演をいただき、参加者全体で理解を深めた。

集会終了後は、実行委員会構成団体より27名が参加し、12時00分より一番町平和ビル前において街宣行動を実施した。

構成団体代表者等によるリレートークを行い、連合宮城労働相談ダイヤルを記載したチラシ入りのティッシュ1500個、女性の尊厳と人権の確保を表すバラの花等約800本を街頭で配布し、「ジェンダー平等」、「女性活躍推進」や「すべてのハラスメント・暴力の根絶」等について訴えた。



＜宮城県集会＞

- 日 時：2025年3月8日（土） 10:00～11:30
- 場 所：ハーネル仙台 3階「蔵王」
- 内 容：＜基調講演＞ 演題：「選択的夫婦別氏制度がもたらすもの」
講師：衆議院議員 岡本あき子さん
＜集会アピール採択＞ 連合宮城女性委員会事務局次長 岡田 南
- 参加者：全体100名（連合宮城より68名 男女比率 男34名・女66名）

＜街宣行動＞

- 日 時：2025年3月8日（土） 12:00～13:00
- 場 所：一番町平和ビル前
- 内 容：2025春闘、ジェンダー平等、ワーク・ライフ・バランスの実現、すべてのハラスメント防止等を訴える街頭宣伝とティッシュ、バラ等の配布
- 参加者：連合宮城より 11 名（実行委員会全体として 27 名）